

9月5日(土曜日)「真の幸福の教え(1)」

【新改訳 2017】

ルカ 6.20

「イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話された。『貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものだから。』」

今日からいよいよキリストの幸福の教えに入ります。ふつう、マタイの福音書の「山上の説教」のほうがよく知られています。

ここでの「幸いです」は、原語では強調の文体となっていて、「実に祝福されているのです」と解することができます。また、山頂の教えでは「心の貧しい者は」と言われました。自分の罪深さや無力を素直に認める、謙虚な心で神を信じる人です。

何年か前、高等検察庁の支部長検事 S 氏に初めてお会いした時、このことばは、心を豊かにする現代の教育とは相容れないと言われ、驚いたことがありました。しかし、この方は奥様の祈りの中で、ついに信じて救われ、すばら

しい証しを残して召天されました。主イエスの真意がわかった時、自ら、神の国をご自分のものにされたのです。私たちはどうでしょうか。

～祈り～

主よ。どうか、心の貧しい者となり、御国を自分のものにさせていただける幸いを、真に覚えることができるように導いてください。

【学びのために】

「貧しい者」について:言語では、もの乞いのように(低くなって)、乞い求める者。へりくだる者。主の「幸福の教え」は、マタイのように山上でのお話とともに、ルカの平地でのお話も記録されています。いろいろな所で話されたのでしょうか。それが、ここでまとめられていると考えられます。